

訂正  
鹿兒嶋縣私立教育會編輯  
鹿兒嶋縣史談  
全

特31  
384

026170-000-9

特31-384

鹿兒嶋縣史談 (訂正)

鹿兒嶋縣私立教育會/編

M32

ADC-3851





鹿兒島縣私立教育會編輯

訂正 鹿兒島縣史談

吉田文井堂發行

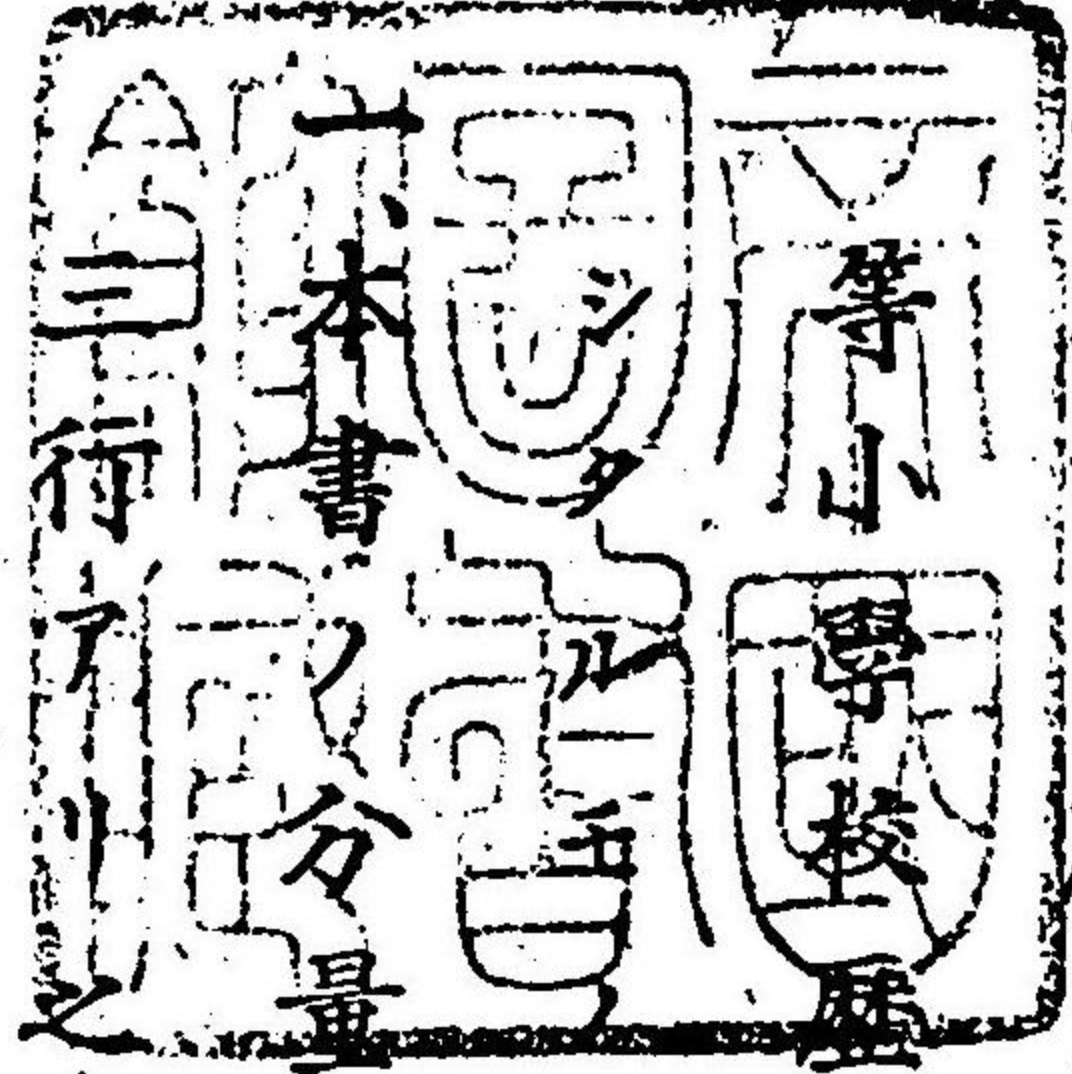


正訂 鹿兒島縣史談

例言



一、本書ハ鹿兒島縣教則第九條ノ旨趣ニ基キ高  
等小學校歴史科用ニ充ツル目的ヲ以テ編纂  
ナリ。



一、本書ノ分量ハ一行十七字詰トシテ二百二十  
三行アリ之ヲ一學年ノ假定授業週數三十五  
週ノ半部即十七週ニテ教課ストスレバ毎週  
十三行ノ割合ナリサレド本書ノ現行數ハ挿  
畫等ノ爲ニ自然増加シタルヲ以テ教課ノ際



ハ一行十七字詰ニ換算スル注意アルベシ。  
 一、題目ノ下部ニ小記セル年數ハ概數ヲ示シタルモノナリ。  
 一、本書文字ノ大小行間字間ノ距離等ハ一二文部省告示ノ標準ニ則レリ。

正訂 鹿兒島縣史談

目次

第一	鹿兒島縣	一	丁
第二	島津忠久	一	丁
第三	桂庵	二	丁
第四	島津貴久	三	丁
第五	島津忠良	三	丁
第六	鐵砲	四	丁
第七	島津義久	五	丁
第八	島津義弘	五	丁
第九	薩摩燒	六	丁



第十	新納忠元	七丁
第十一	琉球征伐	八丁
第十二	調所廣郷	九丁
第十三	島津齊彬	十丁
第十四	島津久光	十一丁
第十五	英艦ノ來寇	十二丁
第十六	西郷隆盛・大久保利通	十三丁
第十七	甘藷	十四丁
第十八	煙草	十五丁
第十九	鹿兒島縣ノ沿革	十六丁

正訂

鹿兒島縣史談目次

終







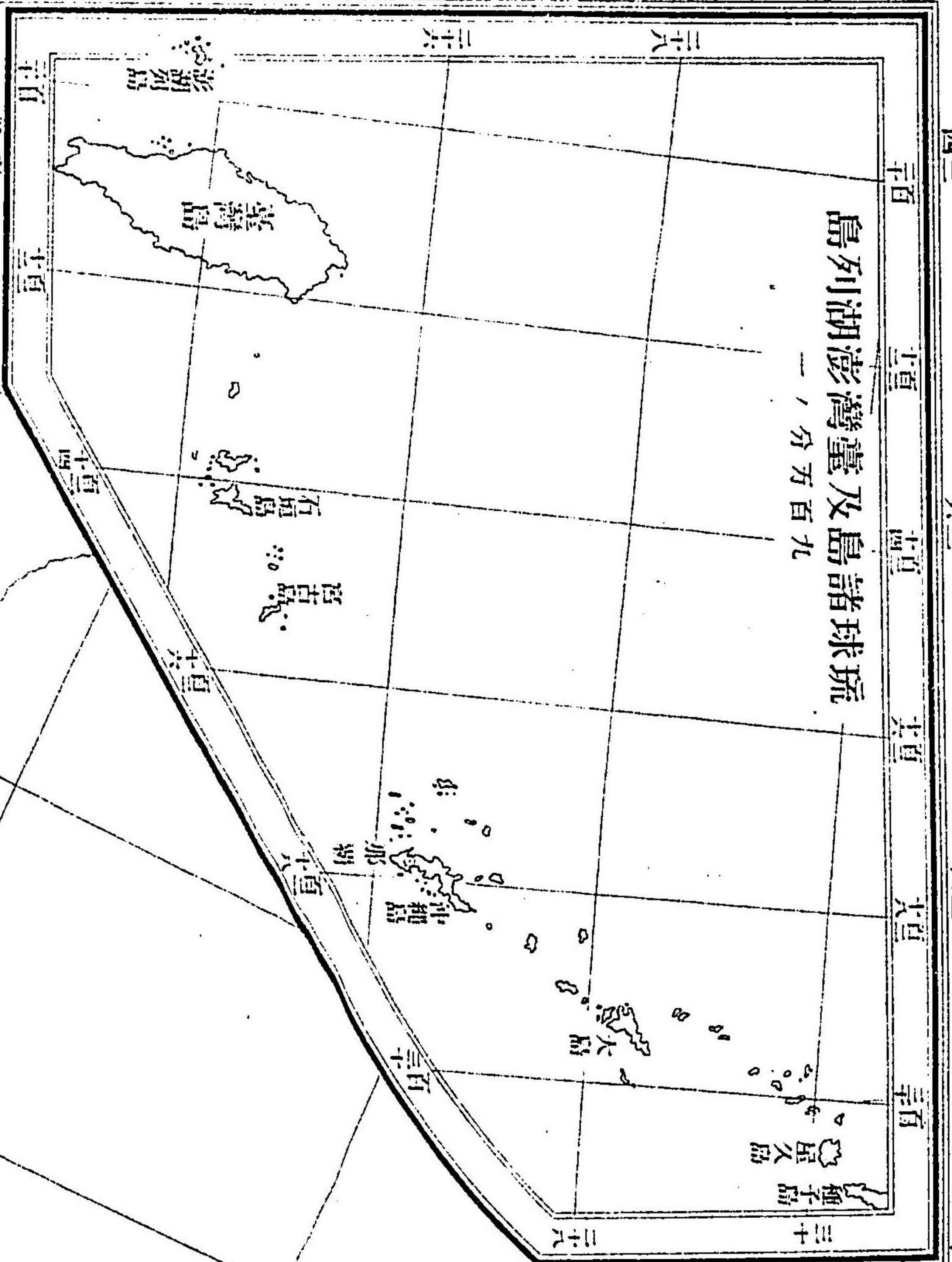
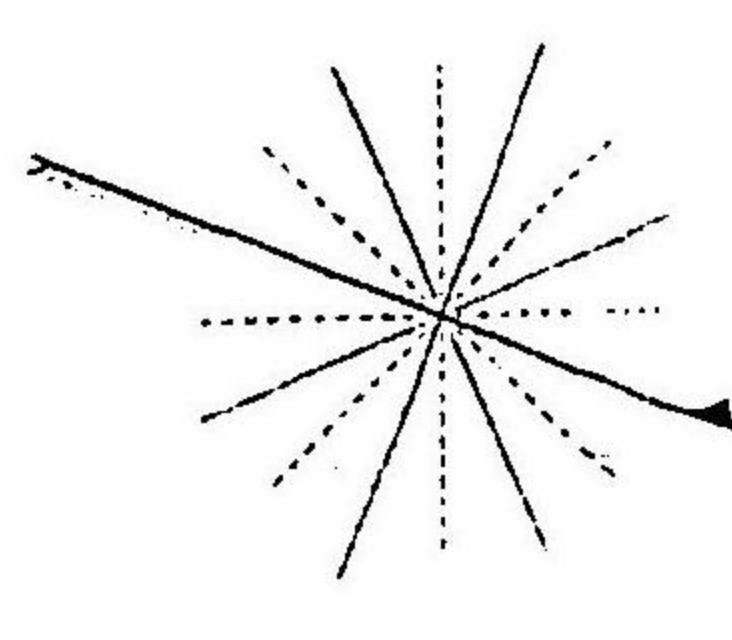
# 日本帝國全國圖



尺 例 比

五里	一
十里	二
三十里	三
四百里	五

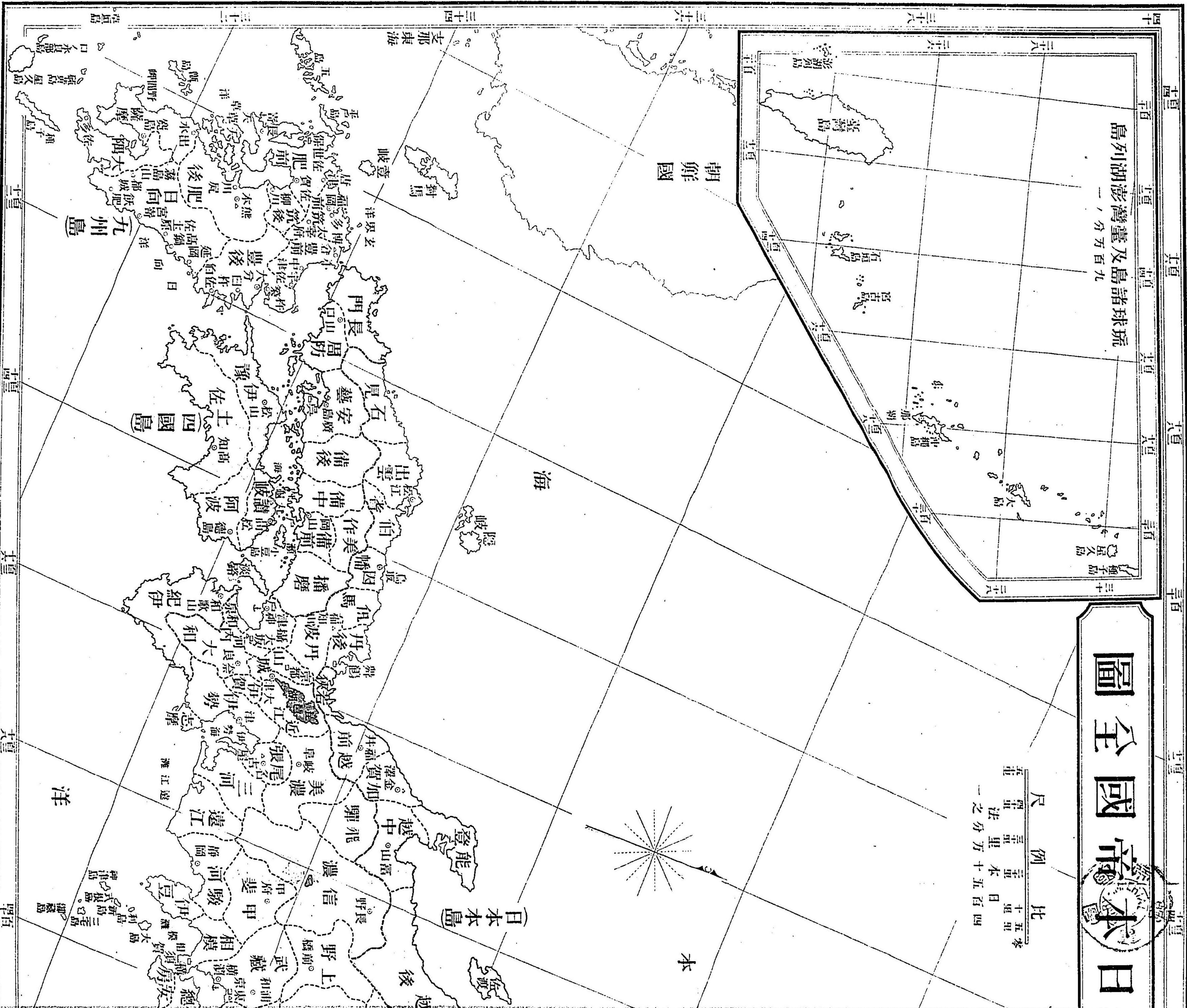
一之五



朝鮮國

海

日本本島



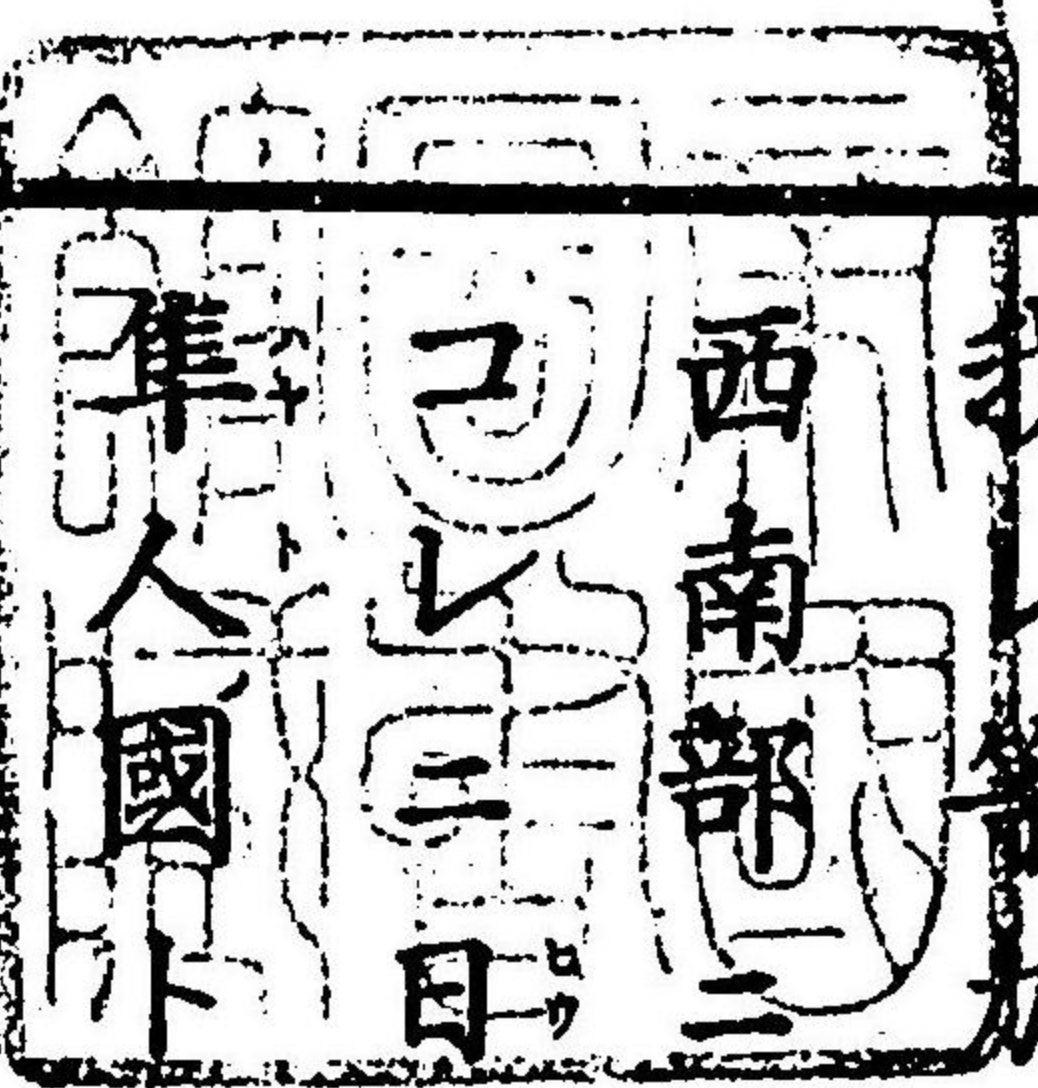
四十 三百 二百 一百 十 五 四 三 二 一

三十四 三十六 三十八 四十 四十二 四十四 四十六 四十八 五十



正訂 鹿兒島縣史談

第一 鹿兒島縣



我々等が住メル、鹿兒島縣ハ、日本帝國ノ  
西南部ニアル、薩摩、大隅ノ二個國ナルガ、  
コレニ日向國宮崎縣ヲ合セテ、昔ハ熊襲クマシロ又ハ  
隼人國トイヒ、此處ニ住ムモノヲ隼人ト  
イヒテ、ソノ性質、猛ク勇マシキモノナリ  
キ。

又、サテ、コノ三個國ノ中ニハ、ソノ昔、神武天



皇ノ御曾祖父、瓊瓊杵尊ヨリ三代宮居ヲ定メタマヒシ所アリ。

コノ三個國ハ、ソノ後、永ク島津氏ノ領地日向ノ半部ヲ除クトナリ居タリシガ、今ハ、鹿兒島縣ト宮崎縣ト二分レタリ。

第二 嶋津忠久

嶋津氏ノ高祖ヲ忠久トイフ。征夷大將軍源賴朝ノ子ニシテ、母ハ丹後局ナリ。賴朝、忠久ニ嶋津ノ苗字ヲ賜ヒ、薩隅日三州ノ

守護トナシケレバ、忠久鎌倉ヨリ、薩摩ノ木牟禮城出水郡ニ移リタリ。

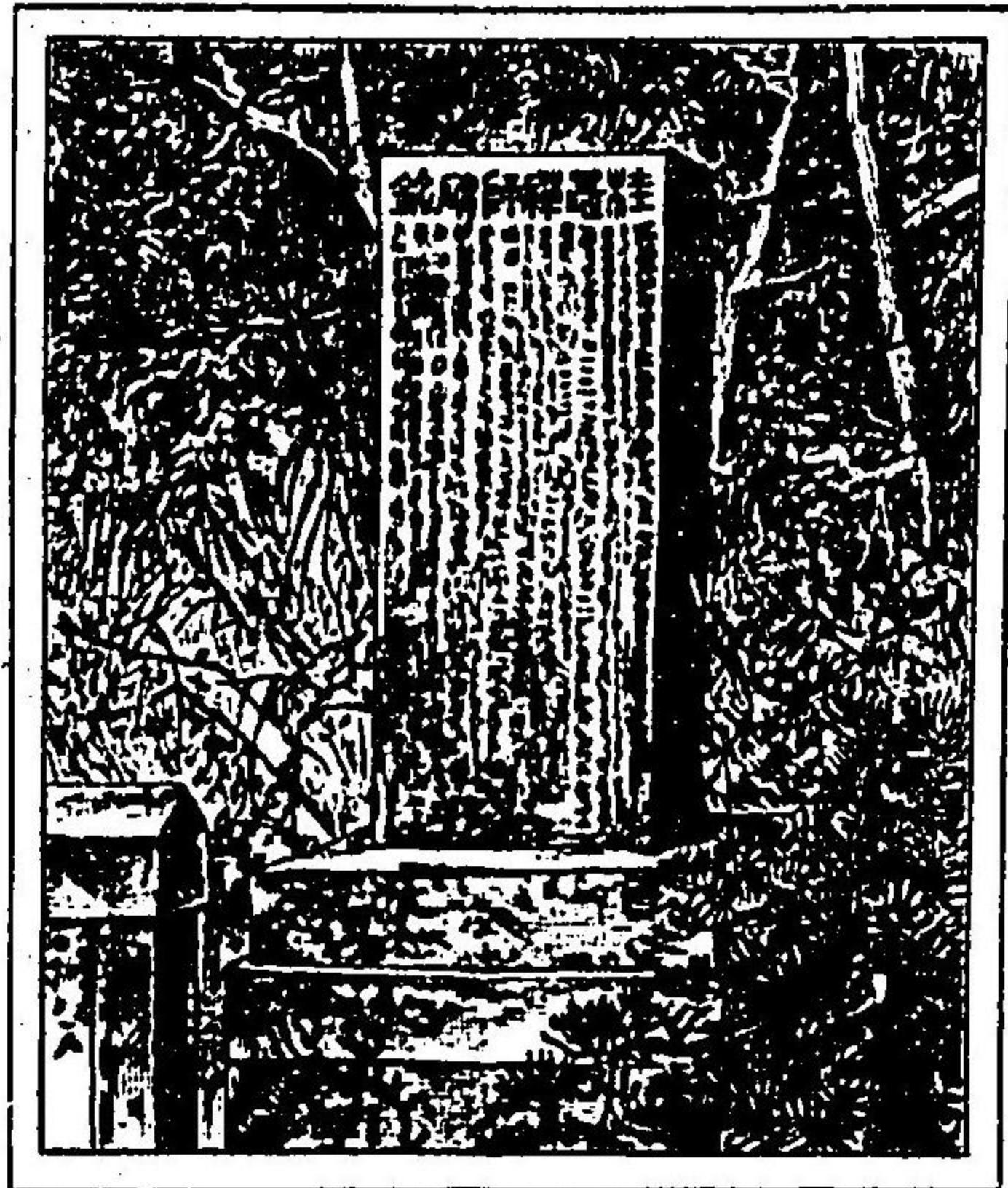
コノ時、薩隅日三州ノ中ニハ、肝屬氏、蒲生氏等ノ豪族所々ニ據リテ、從ハザルモノ多カリキ。コレ今ヲ距ルコト、七百餘年前ノ事ナリ。

第三 桂菴(四百年前)

桂菴ハ、周防國ノ人ナリ。幼キ時、京都ニ出テ、僧トナレリ。後土御門天皇ノ勅ヲ奉



ジテ、明國ニ渡リ、學問ヲ修メ、歸リテ後、嶋津忠昌ノ招ニヨリテ、鹿兒島ニ來リ、漢學ヲ教ヘタリ。ソノ學問、文之二傳ハリテ、稍、世ニ廣マリ、ソノ門人、如竹ニ至リテ、始メテ廣ク世ニ行ハル、ニ至レリ。サレバ桂菴ハ、實ニ鹿兒島縣ノ漢學ノ元祖ナリ。



桂菴ノ紀念碑

第四 嶋津貴久 (三百年前)

嶋津忠久ヨリ十四代ヲ勝久トイフ。コノ時、國內大ニ亂レケレバ、勝久、政ヲ嶋津忠良ニ託シ、ソノ子、貴久ヲ養ヒテ、嗣トナセリ。貴久、智勇人ニ優レタルガ上ニ、忠良コレヲ異ケテ、



松原神社



慈悲ヲ施シケレバ、永ク嶋津氏ニ從ハザ  
リシ所ノ、蒲生氏、菱刈氏等モ、次第々々ニ  
降伏シテ、嶋津氏ノ威勢始メテ強大トナ  
レリ。

コノ時ニハ、義久、義弘ノ如キ、父ニ劣ラザ  
ル大將ヲ始トシテ、新納忠元等ノ豪傑ア  
リキ。

第五 嶋津忠良

嶋津忠良ハ、日新公トテ、人ノヨク知ル所

ナリ。忠良、人ニ秀デ、聰明ニ、人ニ優レテ  
慈悲深ク、貴久ヲ翼ケテ、國內ノ亂ヲ戡メ、  
嶋津氏ノ勢ヲ盛ナラシメタリ。

忠良、コノ戰亂ノ世ニアリテ、學問ヲ好ミ、  
和歌ヲ能クシテ、教訓ヲ後ノ世マデモ、遺  
サレタルモノ多シ。ソノいろは歌ハ、今ノ  
世マデモ、人ノ敬ミテ誦スル所ナリ。

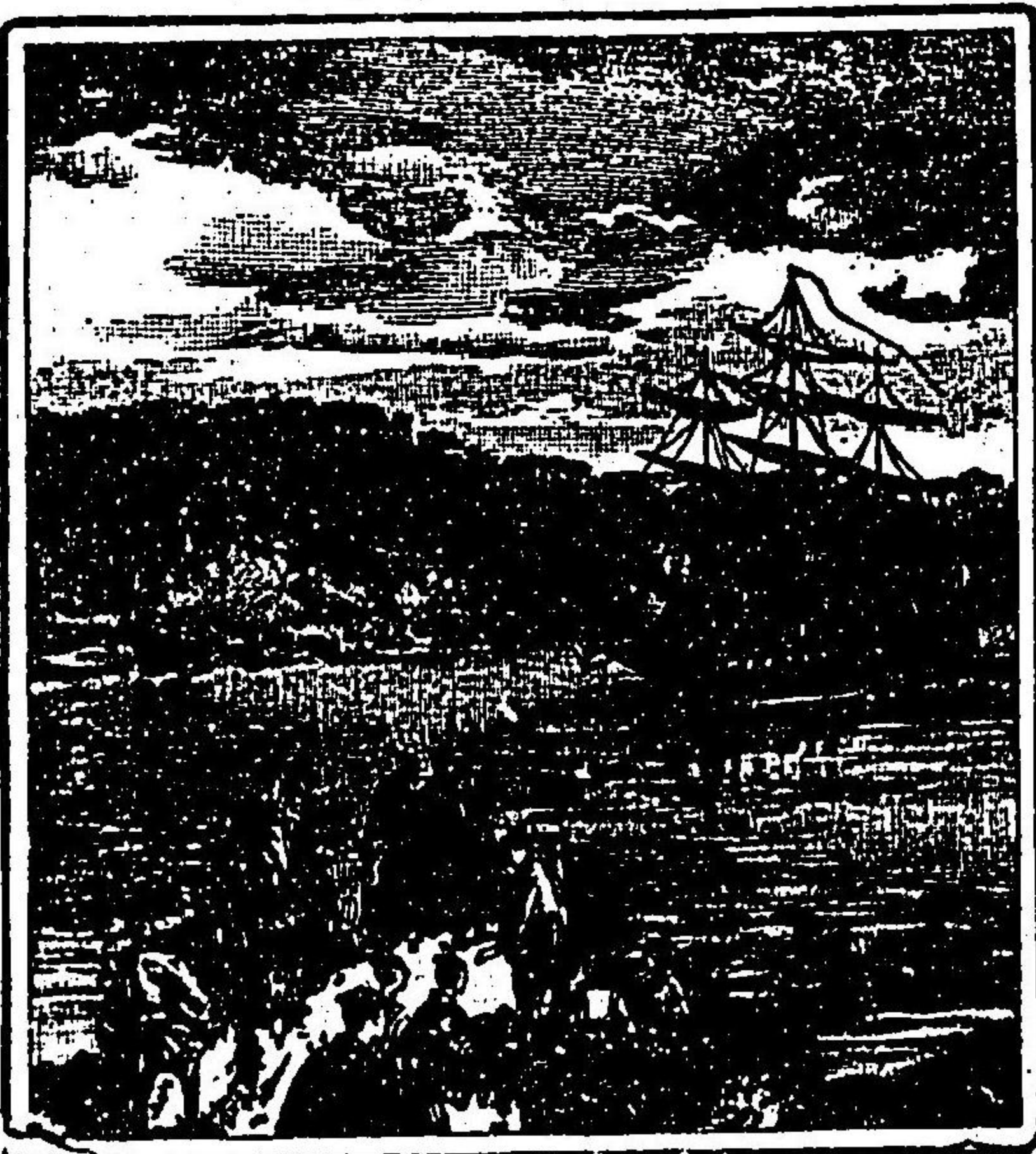
第六 鐵砲

天文十二年、大隅國、種子島ニぼるちゆが



るノ商船、來リ泊リシカバ、嶋主種子島時  
 堯、船長等ヲ厚クモテナシテ、鐵砲二挺ヲ  
 得、八板清定ヲシテ、鐵砲製造ノ法ヲ學バ  
 シム。清定、命ヲ稟  
 ケ、苦心勵精シテ、  
 遂ニコレヲ成就  
 スルコトヲ得タ  
 リ。  
 コノ事、朝廷ニ聞

泊來ノ船國外



エケレバ、時堯ヲ賞シテ位階ヲ進メラル、  
 コレ我が邦ニテ、鐵砲ヲ造リシ始ナリ。

第七 嶋津義久

嶋津義久ノ時ニ至リテ、薩隅、日三州中、猶  
 肝屬氏、伊東氏等ノ倔强ナル豪族、從ハザ  
 ルモノアリケレバ、義久遂ニ肝屬氏ヲ降  
 シ、伊東氏ヲ追ヒテ、三州ヲ定メ、進ミテ、肥  
 後、肥前、筑前、筑後ヲ平ゲ、豊後ノ大半ヲ陷  
 ル、ソノ勢、破竹ノ如ク、殆、九州ヲ合セント



セリ。

是ニ於テ、豐臣秀吉、自<sup>ミンカラ</sup>大兵ヲ率井テ、來リ  
伐ツ。義久終ニ和ヲ乞フ。秀吉、因リテ薩隅  
ノ二州ト、日向ノ諸縣郡トヲ與ヘタリ。

第八 嶋津義弘

嶋津義弘、父兄ニ從ヒテ、國內ノ亂ヲ戡メ、  
進ミテ、嶋津氏ノ威勢ヲ九州ニ輝セリ。  
豐臣秀吉、大ニ兵ヲ發シテ、朝鮮ヲ伐ツヤ、  
義弘亦、朝鮮ニ渡リ、カノ地ニ在ルコト、前



後七年、新寨<sup>レンサイ</sup>、泗川<sup>ソウケン</sup>ノ  
役<sup>エキ</sup>、功勳最多シ。日本  
新軍ノ、兵ヲ全クシテ、  
還ルコトヲ得タル  
ノ寨  
役ハ、實ニ義弘ノ大捷  
ヲ得タルニ由レリ  
トイフ。

後、慶長五年、徳川氏ト關ヶ原ニ戦ヒ、敗レ  
テ國ニ歸ル。コノ時、嶋津豐久等ノ奮戰シ



タル談ハナシアリ。

第九 薩摩燒

嶋津義弘、朝鮮ヨリ  
歸ル時、朝鮮ノ男女  
若干人ヲ携オソナヘ來レ  
リ。ソノ中ニ、金芳仲キンハクチウ、  
朴平意ハクヘイトイフモノ  
アリ。朝鮮風ノ陶器  
ヲ製スル術ニ長ジ

苗代川ノ製陶



ケレバ、義弘命ジテ、芳仲ハ帖佐テウサニ、平意ハ  
苗代川ナヘシロガハニ、各、陶器製造所ヲ開カシム。コレ  
薩摩燒ノ始ナリ。

カノ古帖佐コテウサト稱シテ、世人ノ貴ブ所ノモ  
ノハ、コノ芳仲ガ製造セシモノナリ。  
ソノ後、立野タテノ、田之浦等ニモ、製造所ヲ設ケ  
シガ、今ハ、苗代川、田之浦ニテ、盛ニコレヲ  
製造セリ。

第十 新納忠元



新納忠元ハ、貴久、義久、義弘、家久ニ仕へ、貴

久ノ時ヨリ、大口

ノ地頭タリ。忠元

ハ、即、武藏守ナリ。

豊臣秀吉、兵ヲ率

井テ、薩摩ニ入り、

島津氏、遂ニ和ヲ

議スルニ當リ、祁

答院ノ領主、島津



忠元道服ヲ拜領ス

歳久ト謀<sup>ハカリ</sup>ヲ合セ、大口城ヲ守リテ曰ク、秀  
吉大兵ヲ以テ、我が國ニ入ル、一人ノ敵ス  
ルモノナクバ、天下ノ人ハ、必、薩隅、日ノ三  
州中ニ、一人ノ男子ナシトイハント、義久  
切<sup>シキ</sup>ニコレヲ論シテ曰ク、汝國ニ忠ナラン  
ト欲セバ、枉<sup>マカ</sup>ゲテ我が言ニ從ヘト、是ニ於  
テ、忠元髮ヲ削リ、天堂<sup>テウ</sup>尾<sup>ビ</sup>ノ陣營ニ至リ  
テ降レリ。  
忠元ハ、武勇人ニ過ギタルノミナラズ、又、



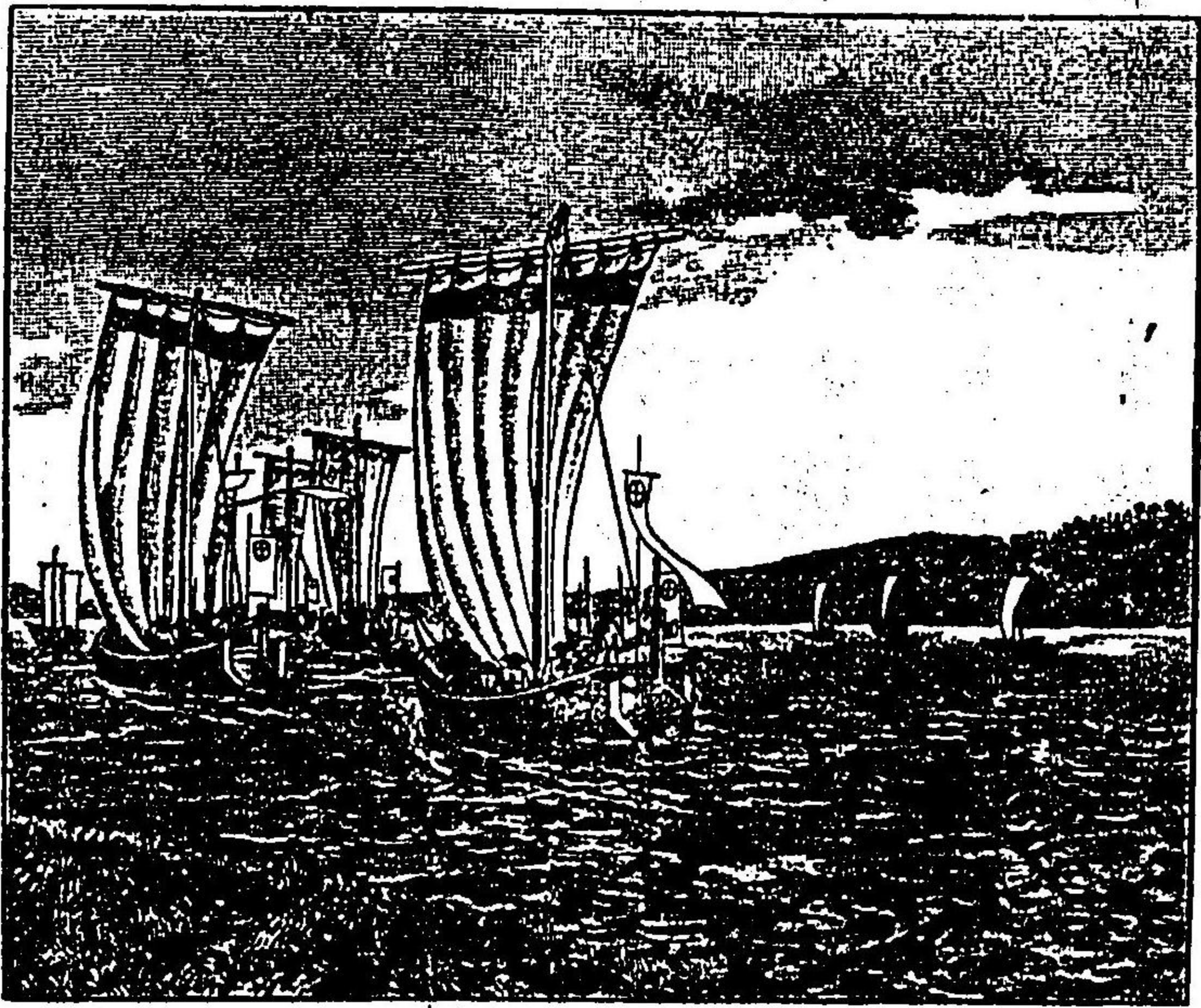
詩歌ヲ能クセリ。義弘ノ征韓ヲ送リテ、詠  
ミタリシ歌ニ、

あぢきなや、唐土までも、おくれトと

思ひ〜ことも、昔なりけり、

第十一 琉球征伐 (二百八十年前)

琉球ハ、將軍足利義教ノ、嶋津忠國ニ賜ヒ  
シヨリ、嶋津氏ニ屬シ來タリシガ、家久ノ  
時ニ至リ、久シク貢ヲ怠リケレバ、家久、屢  
使ヲ以テコレヲ責ムレドモ、固ク拒ミテ



薩摩山川港ヲ出ツ

島、徳之島等ヲ伐チ從ヘ、進ミテ、琉球ニ攻

從ハズ。是ニ於テ、  
將軍徳川家康ニ  
請ヒ、樺山久高ヲ  
大將トシテ、コレ  
ヲ征伐セシム。  
慶長十四年三月、  
久高等、山川港ヨ  
リ、兵船ヲ出シ、大



メ入り、王城ヲ圍ミシカバ、國王尚寧、大ニ恐レ、出テ、降レリ。

將軍、ソノ功ヲ賞シ、琉球ヲ家久ニ賜フ。コレヨリ明治ノ初マデ、島津氏ニ屬セリ。

第十二 調所廣郷 (五十年前)

調所廣郷ハ、幼ニシテ島津重豪ノ茶道坊主トナリ、齊宣齊興ニ仕ヘテ、終ニ國老トナリ、藩政ヲ改メ修メシ所多シ。

當時、島津氏、藩費頻ニ嵩ミ、齊興ノ時ニ至

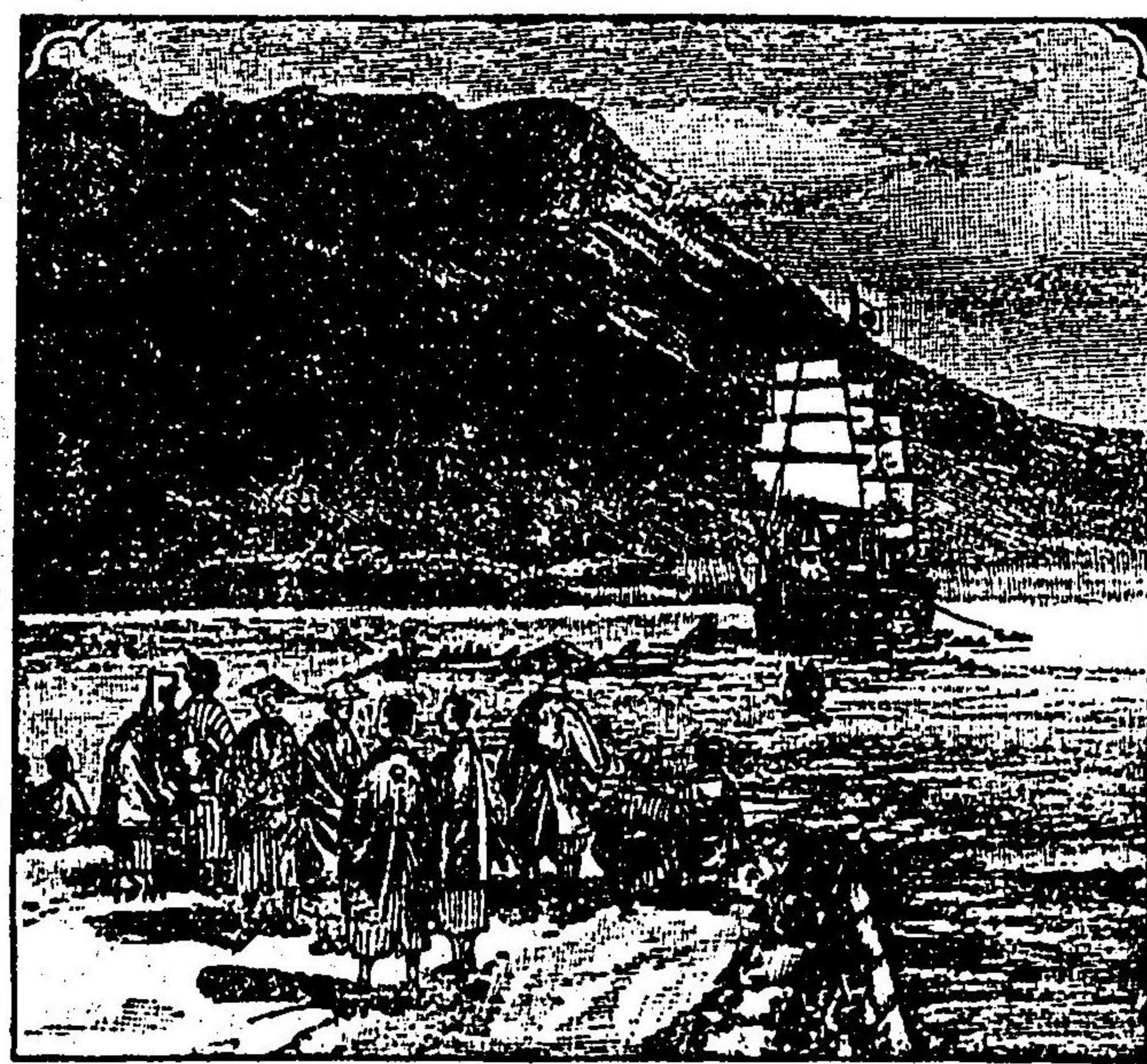
リテハ、財政甚、困難ナリシガ、廣郷命ヲ稟ケテ、河水ヲ治メ、橋梁ヲ架ケ、道路ヲ開キ、農商ヲ勵マシ、終ニ衰ヘタル財政ヲシテ、大ニ豊ナルニ至ラシメタリ。

第十三 嶋津齊彬 (四十年前)

嶋津齊彬、聰明ニシテ、内外ノ事情ニ通ジ、常ニ、我が邦人ノ、外國ノ事情ニ通ゼザルヲ憂ヒ、西洋ノ學藝ニ通ジタルモノヲシテ、航海、造船等ノ諸書ヲ譯セシメ、又、砲臺



ヲ築キ、集成館ヲ設ケテ、鐵砲ヲ鑄造シ、或ハ造船所ヲ開キテ、軍艦ヲ造ル、コレ實ニ、



昇平丸鹿兒島港ニ回航

我が邦ニテ、西洋形軍艦ヲ造リシ始ナリ。又造士館、演武館ノ規則ヲ改メテ、大ニ文武ヲ獎勵セリ。嘉永六年、亞米利

加軍艦ノ、我が邦ニ來ルヤ、齊彬、深クコレヲ憂ヒ、屢書ヲ朝廷ト幕府トニ上リテ、周旋セシ所多シ。

薨スル後、朝廷ソノ功ヲ賞シテ、權中納言從三位ヲ贈リ、照國ノ神號ヲ賜フ。今上天皇、又從一位ヲ贈リ、別格官幣社ニ列セサセタマヘリ。

第十四 嶋津久光

積年勤王之稱首と爲り、大兵を擧げ、斷



然力を朝廷に盡し、戊辰の春、伏見之一  
 戦、大に賊膽を破り、天下人心の方向を  
 決し、續て東北諸道に出兵し、毎戦取捷  
 竟に平定の偉功を奏し、奉安宸襟候段、  
 洵に國家之柱石に被思召、獻感不斜、仍  
 而爲其賞、官位昇進、祿拾萬石、下賜候事。  
 トハ、明治二年、今上天皇ノ、島津久光ト、島  
 津忠義トニ賜ヒシ所ノ勅語ナリ。  
 久光ハ、齊彬ノ弟ニテ、忠義ノ實父ナリ。明

治ノ初、左大臣ニ任ジ、從二位ニ叙セラ  
 ル。後、明治二十年、疾篤キニ及ビ、天皇、侍醫ヲ  
 遣ハシテ、コレヲ視シメ、又大勲位、菊花大  
 綬章ヲ賜ハル。ソノ薨スルヤ、勅シテ、特ニ  
 國葬ノ禮ヲ以テ、葬リタマヘリ。

第十五 英艦ノ來寇 (三十六年前)

文久二年、朝廷、勅使ヲ幕府ニ遣ハサル、  
 ニ當リ、島津久光、コレガ副使タリ。歸ルニ  
 及ビ、久光、先ヅ發シテ、生麥村武藏ニ至ル、



英人三名馬ヲ馳  
 テテ行列ヲ犯セ  
 リ。久光ノ從士一  
 人ヲ殺シ、二人ヲ  
 傷ク。英國大ニ怒  
 リ、幕府ニ逼リテ、  
 償金ヲ得。翌年六  
 月、更ニ軍艦七艘  
 ヲ率井、鹿兒島ニ

英 艦 ノ 未 寇

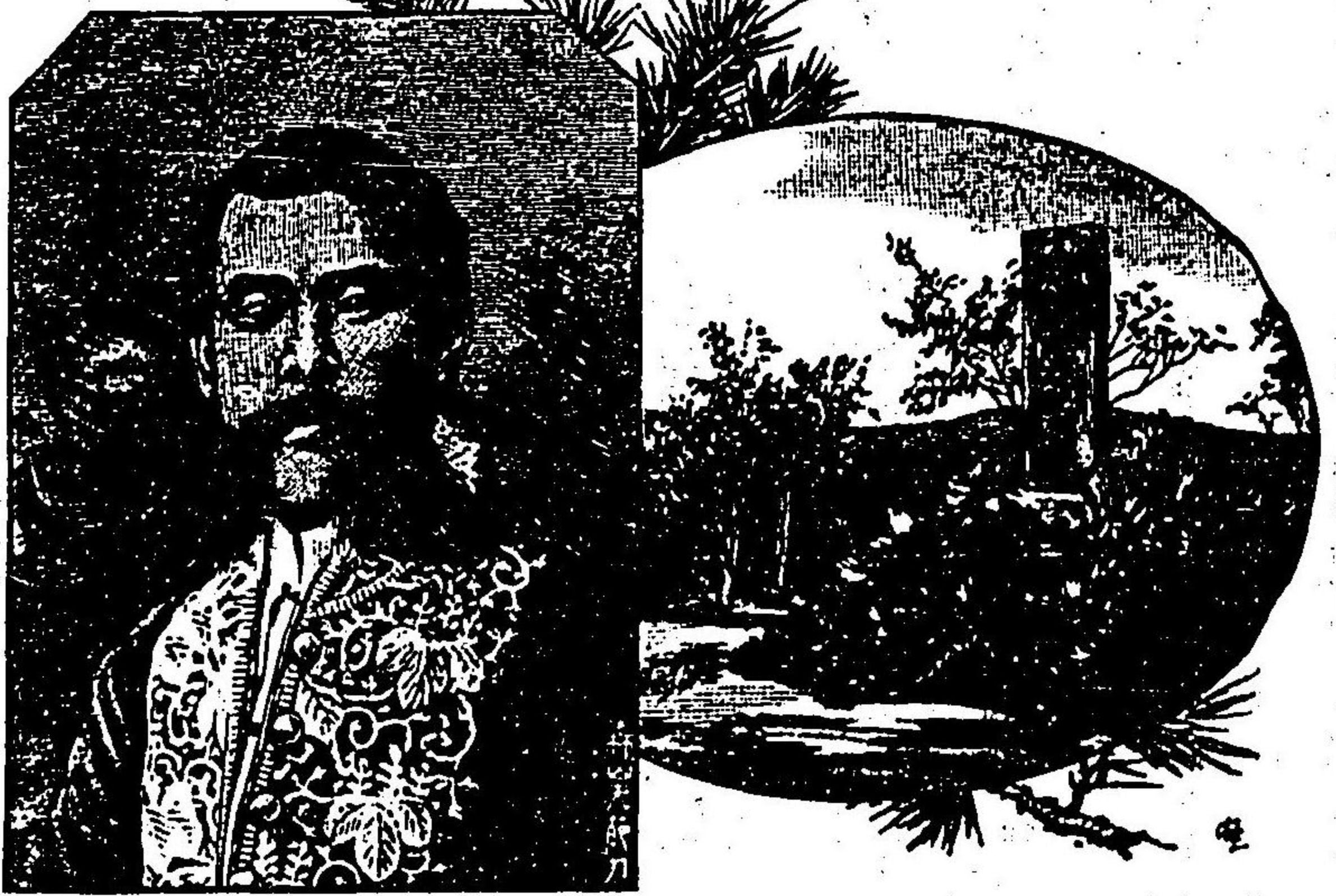


來リテ、償金ヲ求ム。島津氏應ゼズ。藩兵、天  
 保山、祇園洲、櫻島等ノ砲臺ニ據リテ、コレ  
 ヲ守レリ。

會、英艦、薩藩ノ汽船三艘ヲ奪ヒケレバ、藩  
 兵コレヲ見テ、所々ノ砲臺ヨリ、俄ニ砲撃  
 セシニ、英艦狼狽シテ、錨ヲ切り捨テ應戰  
 シタルモノモアリタリシガ、ゾノ砲丸、往々  
 火ヲ發シテ、市街ヲ燒ケリ。サレド、藩兵、  
 善ク戰ヒタレバ、英艦終ニ敗走セリ。コノ



事、朝廷ニ聞エケレバ、褒勅ヲ賜ハリタリ。  
 第十六 西郷隆盛・大久保利通  
 鹿兒島市、加治屋町ノ、甲突川ニ近キ地ニ、  
 小公園ノ如キモノニ箇所アリ。共ニ、石碑  
 高ク中央ニ立チ、梅櫻桃李ヲ、四周ニ植ワ。  
 コレ一ハ、西郷隆盛、誕生地ノ紀念碑ニシ  
 テ、一ハ、大久保利通、誕生地ノ紀念碑ナリ。  
 コノ二人ハ、維新ノ際、共ニ王事ニ勤メ、大  
 ニ功勞アリシ人ニテ、隆盛ハ、參議、陸軍大



西郷、大久保ノ紀念碑及肖像



將ニ任セラレ、利通ハ、參議、兼、内務卿ニ任セラレタリ。ソノ蹟、同ジカラザレド、後人、皆ソノ德ヲ欽慕セリ。

第十七

甘藷

(元祿十一年ハ二百年前ニテ、寶永八年ハ十三年後ル)

元祿十一年、琉球國王、甘藷一籠ヲ、種子島久基ニ贈ル。久基、コレヲ種子島ニ植エシム。コレ我が邦ニ、甘藷ヲ植エシ始ナリトイフ。

又、山川村ニ、利右衛門トイフモノアリ。寶永八年、琉球ニ至リ、一ノ甘藷ヲ盆栽ニシテ歸リ、コレヲソノ地ニ植エ始メタリ。コレ内地ニ植エシ始ナリトモイヘリ。後、享保十七年、我が邦大ニ饑エ、餓死スルモノ多カリシガ、唯、薩、隅、日ノ三州ノミ死スルモノ少カリシハ、實ニ甘藷ノ効ナリトイヘリ。將軍德川吉宗、頻ニ、コレヲ栽培スルコトヲ、奨メ勵マシケレバ、大ニ諸國ニ傳播スルニ至レリ。



第十八 煙草

(寛永ハ二百五十年前)

煙草ハ、鹿兒島縣著名ノ物産ニシテ、出水、指宿、國分ノ産、最著ハル。煙草ハ、モト亞米利加洲ニ産シテ、諸邦ニ傳ハリシモノナルガ、鹿兒島縣ノ煙草ハ、何時ニ傳ハリシカ、明ニ知ルコト能ハザレドモ、今現ニ寛永年中ノ葉煙草ヲ貯フルモノアルヲ以テ、ソノ年代ノ久シキコトヲ知ルベシ。或ハ天文年中、鐵砲ト共ニ傳ハリテ、今日ノ

名産トナリシモノナリトモイヘリ。

第十九 鹿兒島縣ノ沿革

薩隅、日ノ三州ハ、昔ハ隼人國ナドト稱ヘ來リシヲ、後ニ日向國ト改メ、又薩摩、大隅、日向ノ三箇國ト分チ稱ヘタルモノナリ。島津忠久、コレガ守護トナリシヨリ、勝久ニ至ルマデ、三百餘年ノ間、騷亂止ムトキナカリシガ、貴久封ヲ繼グニ及ビ、忠良コレヲ翼ケテ、仁政ヲ施シケレバ、所々ノ豪



族、相踵ギテ降伏セリ。

ソノ子、義久ニ至リテ、國勢益強ク、殆九州ヲ合セントセシニ、豊臣秀吉ノ征伐ヲ受ケ、終ニ和ヲ乞ヒ、僅ニ薩隅ノ二州ト、日向ノ諸縣郡トヲ領スルニ至レリ。ソノ後、家久、琉球ヲ伐チテ、コレヲ降シ、爾來二百五十餘年、併セテコレヲ領セリ。

コノ頃ハ、封建ノ世トテ、數多ノ大名、日本國中ヲ分チ領シ、ソノ國境ニハ、互ニ關所

ヲ設ケテ、取締ヲ嚴重ニセシカバ、交通ニハ、甚困難ヲ極メタリキ。

明治四年、廢藩置縣ノ時、鹿兒島縣ヲ置キテ、薩摩及大隅ノ熊毛、馭謨二郡ト、今ノ大島郡トヲ管シ、大隅ハ、都城縣ニ屬セリ。

同六年、都城縣ヲ廢シ、宮崎縣ヲ置キテ、日向ヲ管シ、大隅ハ、鹿兒島縣ニ屬セリ。

同九年、宮崎縣ヲ廢シ、日向ヲ鹿兒島縣ニ屬セシメシガ、同十六年、又、宮崎縣ヲ置キ



テ、日向ヲ管シ、ソノ南諸縣郡ヲ以テ、鹿兒島縣ニ屬セシメタリ。

同二十二年四月、各郡ヲ大島郡ノ町村ヲ改メテ、市町村制ヲ布キ、同三十年四月、國界、郡界ヲ改メテ、翌年四月ヨリ郡制ヲ大島郡ヲ除クヲ布キ、同年九月ヨリ縣制ヲ布キタリ。

訂鹿兒島縣史談終

島津氏歴代表

代	數	實	名	居	城	地	重	要	ナ	ル	事	項
高	祖	忠	久	出		水	入國、居城ヲ本牟禮城ニ定ム					
二	代	忠	時	全								
三	代	久	經	全								
四	代	忠	宗	全								
五	代	貞	久	全								
六	代	師	久	出	水、	平佐	居城ヲ平佐、破山城ニ定ム					
七	代	元	久	鹿	兒	島	居城ヲ清水城ニ定ム					
八	代	久	豐	全								
九	代	忠	國	全			足利義教、琉球ヲ賜フ					
十	代	立	久	全			桂庵來ル					
十一	代	忠	昌	全								
十二	代	忠	治	全								
十三	代	忠	隆	全								
十四	代	勝	久	全								

訂鹿兒島縣史談

十八 鹿兒島之及守會殿反



十五代	貴	久	鹿兒島伊集院
十六代	義	久	鹿兒島國分
十七代	義	弘	飯野、栗野
十八代	家	久	帖野、加治木
十九代	光	全	鹿兒島
二十代	綱	全	全
廿一代	吉	全	全
廿二代	繼	全	全
廿三代	宗	全	全
廿四代	重	全	全
廿五代	重	全	全
廿六代	齊	全	全
廿七代	齊	全	全
廿八代	齊	全	全
廿九代	忠	全	全
三十代	忠	全	全

鹿兒島伊集院  
鹿兒島國分  
飯野、栗野  
帖野、加治木  
鹿兒島  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全

居城ヲ内ノ城ニ定ム、鐵砲ヲ傳フ  
秀吉ノ西征  
秀吉ノ征韓、關ヶ原ノ役  
居城ヲ鶴丸城ニ定ム、琉球ヲ征ス  
甘藷ヲ傳フ  
造士館演武館ヲ興ス  
始メテ軍艦ヲ造ル  
英艦ノ來寇、廢藩置縣

明治二十九年二月二十七日發行  
 明治二十九年七月廿三日訂正再版發行  
 明治三十二年二月二十日訂正三版印刷  
 明治三十二年二月二十三日發行

訂正鹿兒島縣史  
定價金拾五錢

版權所有

編輯者 鹿兒島縣私立教育會

鹿兒島市山下町  
鹿兒島縣尋常師範學校內

發行兼印刷者 吉田幸兵衛

鹿兒島市中町四十六番戶

發賣所 吉田文弁堂

鹿兒島市中町

賣捌所 吉田支店

薩摩郡川内町







